



自分らしく、音楽をいい音で

毎日の暮らしに

いまのトレンドが全部入り。しかし、スペックだけでは語りきれない魅力が詰まっている—。そんなノイズキャンセリング完全ワイヤレスイヤホンが、オーディオテクニカ「ATH-TWX7」だ。ワークスタイルから普段使いまで、毎日の暮らしに寄り添い、サポートしてくれる。

文／山本 敦 Atsushi Yamamoto
デジタルガジェット全般、
IoT、AIスマートデバイスまで
幅広くカバーするジャーナリスト。

多機能なのに、シンプルに使いこなせる

コロナ禍で人々のワークスタイルに大きな影響を与えたワイヤレスイヤホンが、今は音楽を聴くことのほか音声コミュニケーションにも使われている。広がる様々なニーズを受けて、男女を問わず、あらゆる世代が心地よく使えるワイヤレスイヤホンを目指して誕生した新製品が「ATH-TWX7」だ。筆者は3つのポイントに注目した。

ひとつはスマートなアクティブノイズキャンセリング(ANC)だ。TWX7はBluetooth オーディオ・通話の処理とANCを1つのチップにまとめた最新のSoCを搭載する。TWX9よりも長い連続再生時間と片側約4.7gという軽量化を達成した。イヤホンを充電ケースから取り出して、耳に装着すればすぐに音楽再生が始まるほど起動も速い。

エンジニアの植堅氏は「ANCが動いていることに気付かないほど自然なチューニングに仕上げた」と話す。筆者はTWX7を様々な場所で試した。飛行機のエンジン騒音も消せるほど強力なのに、違和感がなく、音楽はしっかりと響き、映画やドラマのセリフは輪郭が映えて聞きやすい。静けさの中に音のディテールが自然に浮かび上がる、驚くほど成熟したANCだ。

ふたつめに機能美を追求したデザインに注目した。上質なライフスタイルを支える「大人カラー」。ステムスタイルのイヤホンとケースの両方にマットな質感の「触感塗装」を施した。商品企画の村上氏は

「滑らかな手触りとルックスの高級感が出せる塗装を吟味した」という。イヤホンは耳あたりがさらっとして心地よい。ステムの塗装箇所は指で持つと適度なグリップ感でケースから安心して取り出せる。

ちなみにTWX7には2種類のイヤーチップが付属する。傘が柔らかいソフトタイプは音楽再生やハンズフリー通話で長時間使う際に欠かせない。ノーマルタイプは傘に少し張りがある。耳にしっかりとフィットするのでスポーツにも最適だ。イヤホン本体はIPX4防滴仕様で、キッチンにいる時間にも水濡れを気にすることなく使えた。

みつつめの注目はConnectアプリが搭載する「サウンドスケープ」だ。潮騒や小川のせせらぎ、焚き火の音など、6つの環境音と4つのヒーリングサウンド、ホワイトノイズなどを聞きながら集中力が高められる。筆者はカフェなど賑やかな場所で原稿を書く時、この機能が欠かせない。米満氏に聞くと「自然のサウンド」は同社の高音質マイクで録ったそうだ。「プライベートタイマーの機能をサウンドスケープと併用すれば「今から1時間だけ深く集中する」といった使い方ができる」と、面白い活用術を指南してくれた。

TXW7は高音質コーデックLDACによる96kHz/24bitのハイレゾワイヤレス再生に対応する。「Android 8.0以降のスマホやタブレットはLDACを標準搭載する端末も多い。沢山のユーザーにハイレゾ



フラグシップ「ATH-TWX9」の洗練された設計思想を受け継ぐ、総合力とコスパに優れたイヤホン。カラーはリッチホワイト、アッシュブラック、ストーングレイの3色。コンパクトで手触りのいいケースはワイヤレス充電にも対応する。

音楽も通話も高品位で



LDAC

専用設計5.8mmドライバーを搭載。LDACコーデックに対応しており、対応端末との組み合わせでハイレゾワイヤレス伝送も可能だ。



マイクは片側3基ずつ。ハイブリッドノイズキャンセリングで静けさをもたらし、ビームフォーミングで通話もクリアに届ける。しかも通話は温かみのある声を届ける「ナチュラルモード」と、騒音に強い「ノイズリダクションモード」の2つを選べる。

ノイズキャンセリング完全ワイヤレスイヤホン

Audio-Technica ATH-TWX7

¥OPEN ▶投票 No.001

SPEC ●通信方式:Bluetooth 5.1 ●対応コーデック:SBC、AAC、LDAC ●ドライバー口径:5.8mm ●連続再生時間:約6.5時間(充電ケース込み約20時間) NC ON時 ●質量:約4.7g(片耳、約47.5g(充電ケース)) ●付属品:イヤークリップ2種×4サイズ、充電ケーブル

寄り添うイヤホン

「ワイヤレスを楽しむ機会を届けたかったから」だと村上氏は説く。

LDACに対応する Google Pixel 8 との組み合わせで、ANCをオンにして聴いた。自然なバランスと見晴らしのよさに力強く惹きつけられた。声の質感がきめ細かく艶っぽい。ジャズのピアノカルテットでは熱いエネルギーのほとばしりを伝える。アップテンポなロックやダンスミュージックのビートは打ち込みが鋭い。LDACでの再生は音楽の精細さが引き立つ。iPhoneで聴いた活き活きと響く音も楽しい。

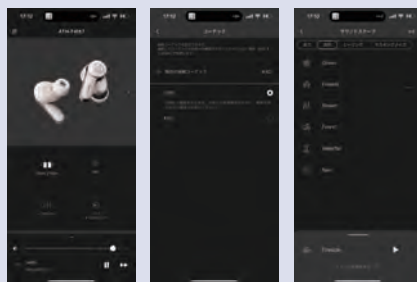
音響エンジニアの植堅氏は「TWX7は小さくてもすごいイヤホン」を目指したと振り返る。5.8mmドライバーの素性を活かすため、内部回路やDSP設計を可能な限り精巧に作り込んだ。「長年に渡るイヤホン開発により培ってきた製造技術も活きた。すべてのエンジニアによるチーム連携の結晶」と、会心の笑みを浮かべた。

ハンズフリー通話では2つのマイクモードが選べる。カフェなど賑やかな場所では「ノイズリダクションモード」がおすすめだ。雑音を除去して、通話相手に話者の声を聞き取りやすくする。在宅勤務中など静かな空間にいるのであれば、内蔵マイク本来のクリアな收音性能を引き出せる「ナチュラルモード」を選びたい。

TWX7はとても多機能なワイヤレスイヤホンだ。それでも、シンプルに使いこなせるところに最大の魅力があると思う。たとえばオンライン会議など、イヤホンを片側だけ装着して使うことを好むユーザーも少なくない。TWX7はイヤホンを片耳で使うと自動でヒアスルー機能をオンにする。イヤホンを装着していない耳との“聞こえ方”が揃うように外音取り込みのバランスも整えた。耳から外して一定時間が経つと電源がオフになる。目指した形は「ユーザーの生活に寄り添う心地よいイヤホン」なのだ、エンジニアの佐藤氏が結んだ。

総合力が高くコスパにも優れた、新しい定番モデルになりそうだ。

アプリの完成度が高い!



専用アプリ「Connect」はノイズキャンセリングやコーデック切り替えのほか、ボリュームステップを細かくカスタマイズできる機能など、盛りだくさんの内容。ユニークなのは「サウンドスケープ」機能で、オーディオテクニカの高性能マイクで収録された独自の音源で、仮眠を取りたいときや仕事の集中力を高めたいときに役立つこと請け合い!



取材にご対応いただいた株式会社オーディオテクニカの皆さん。左から商品開発部 BT開発課の植堅徹さん、佐藤碧丹さん、米満麻弥さん、マーケティング部 プロダクトマネジメント課の村上勇馬さん。